

十勝岳

1 概況

今月に入ってから振幅の小さな火山性微動が 9 日、12 日および 19 日に観測されました。このうち 19 日の微動発生時には 62-2 火口から火山灰混じりの有色噴煙が観測されました。有色噴煙の前後で火山性地震の増加は見られず、空振計にも変化は認められませんでした。

十勝岳では、同様な現象が 2 月 25 ~ 26 日にも発生しました。微動発生源は浅く火山性地震の増加も見られないことから、これらの現象は本格的なマグマ活動によるものではなく、火口直下浅部における地下水や火山ガスが関係した小規模な現象であると考えられます。今後も同様な現象が繰り返される可能性があります。

2 噴煙の状況

19 日の微動発生直後の 10 時 10 分頃から、62-2 火口から火山灰混じりの有色噴煙が観測されました。強風のため高さは火口縁上 100m 程度で、東または北東方向に流されていました。噴煙の高さや勢いは通常と比べて特に変化はなく、12 時頃には白色の状態に戻りました。9 日と 12 日の微動発生時は悪天のため噴煙の状況は確認できませんでした。

62-2 火口の噴煙は通常は白色ですが、量が多く噴出の勢いも強い状況が続いています。今期間の噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m 前後で経過しました。



19 日 10 時 45 分頃の 62-2 火口からの噴煙の状況
(62-2 火口の北北西約 6km 地点に設置した
気象庁の高感度カメラによる映像)

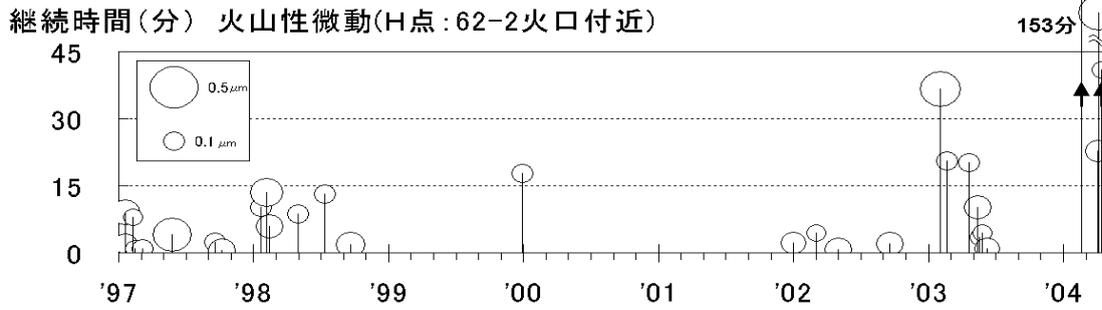
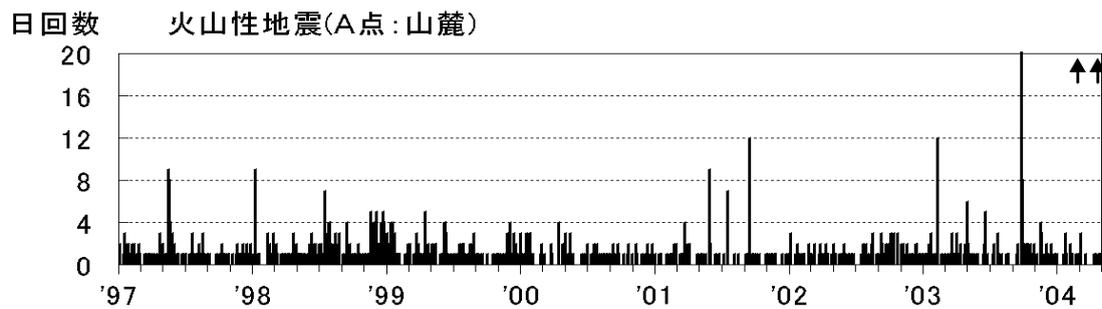
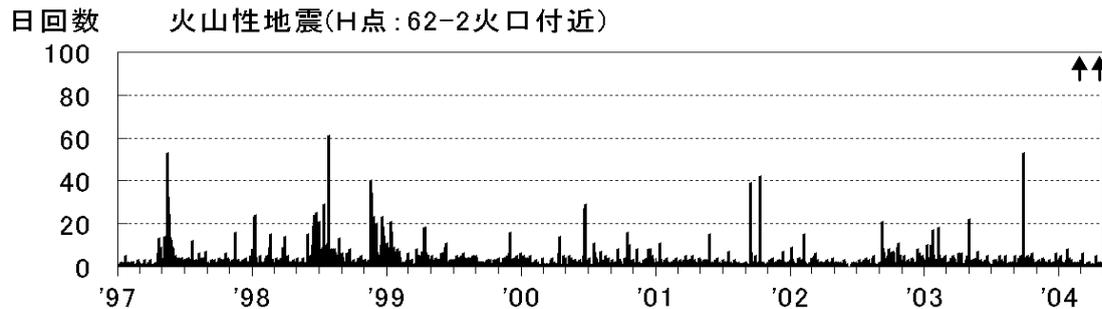
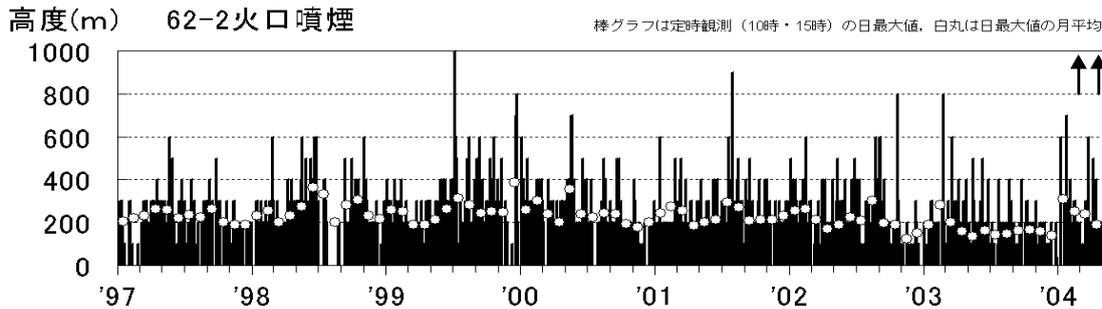
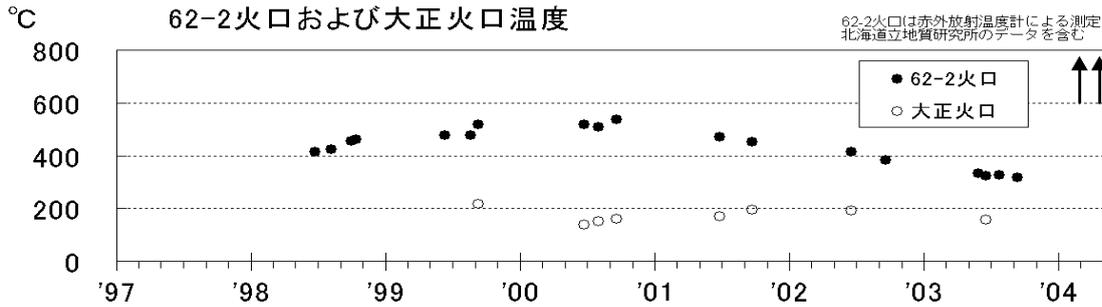
3 地震および微動の発生状況

62-2 火口に近い H 点 (62-2 火口の北西約 1.2km 地点) に設置してある地震計で、9 日、12 日および 19 日の合計 3 回、振幅の小さな火山性微動が観測されました。山麓の A 点 (62-2 火口の北西約 6km 地点) に設置してある地震計ではほとんど認められませんでした。これらの微動は 1988 ~ 89 年の噴火活動期に A 点で観測された多数の火山性微動と比べると非常に小さな微動でした。微動の発生源は 62-2 火口直下の浅いところと推定されることや、微動発生の前後で火山性地震の増加は見られないことから、これらの微動は本格的なマグマ活動によるものではなく、火口直下浅部における地下水や火山ガスが関係した小規模な現象と考えられます。

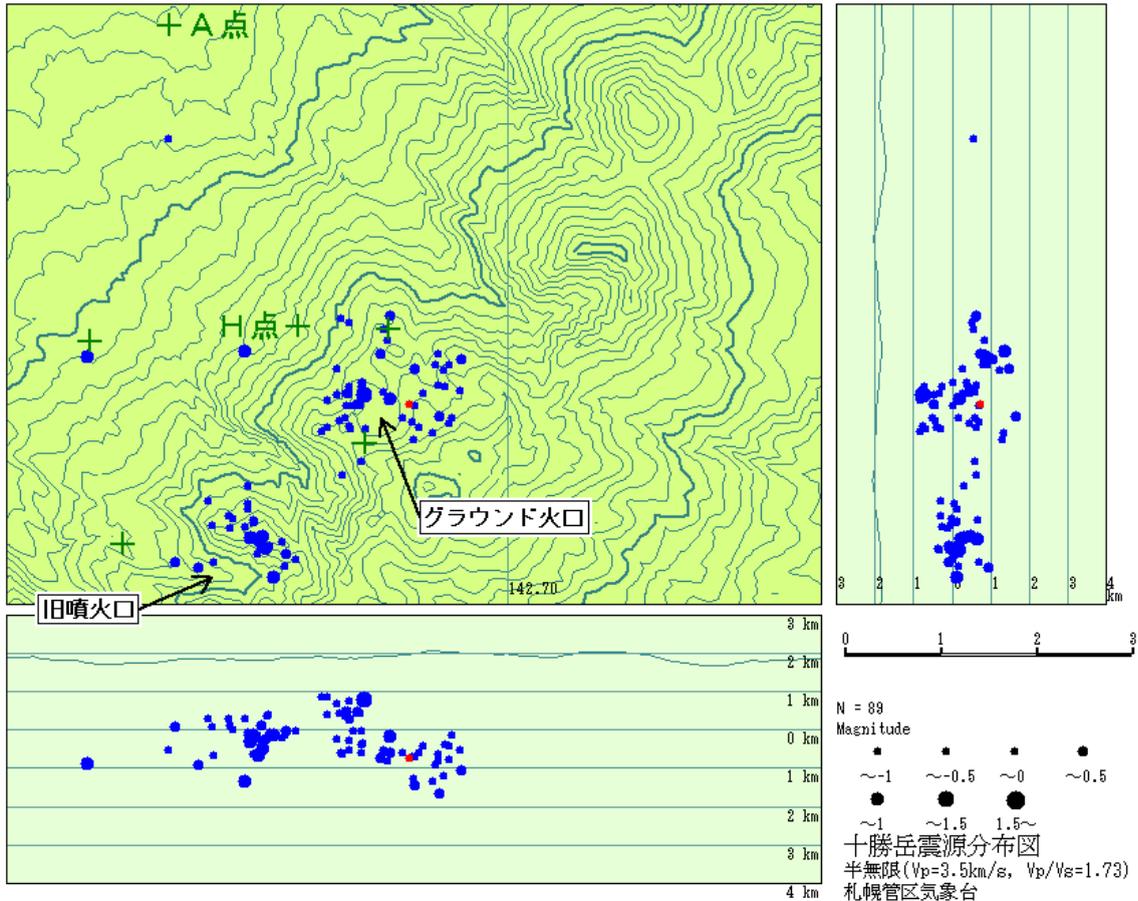
今期間の火山性地震の回数は 1 日あたり 0 ~ 5 回で少ない状態が続いています。

地震・微動の月回数

2003 ~ 2004 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数 H 点	60	24	35	26	106	62	36	36	41	17	30	23
地震回数 A 点	14	9	9	5	40	16	9	12	7	6	5	5
微動回数 H 点	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3



最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2004年4月30日) 印は噴火



十勝岳の震源分布図(丸印:震源、+印:地震観測点)

赤丸は今期間(2004年4月1日~4月30日)に求まった震源を示しています。

青丸は前期間までの8か月間(2003年8月1日~2004年3月31日)に求まった震源を示しています。

過去の震源分布は大きく分けてグラウンド火口周辺と三段山~旧噴火口周辺の浅部(海拔付近)に集中しています。

4 地殻変動の状況

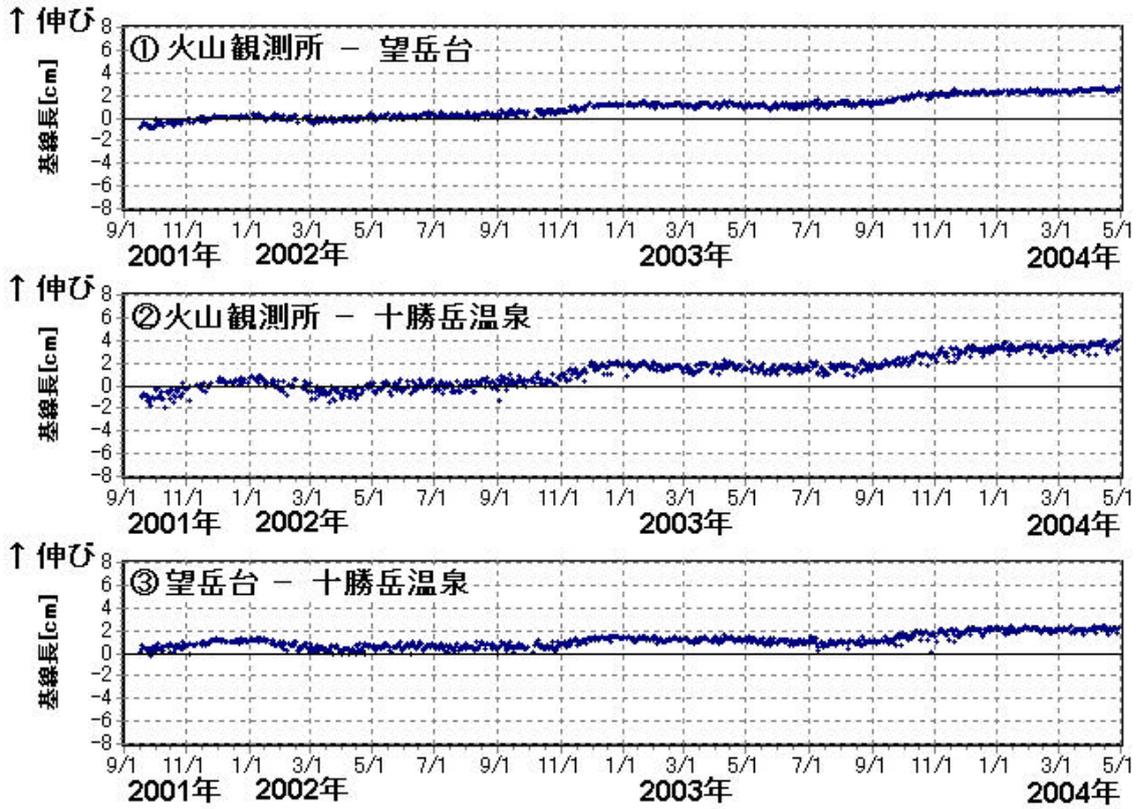
西麓でのGPS連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。

5 調査観測の結果

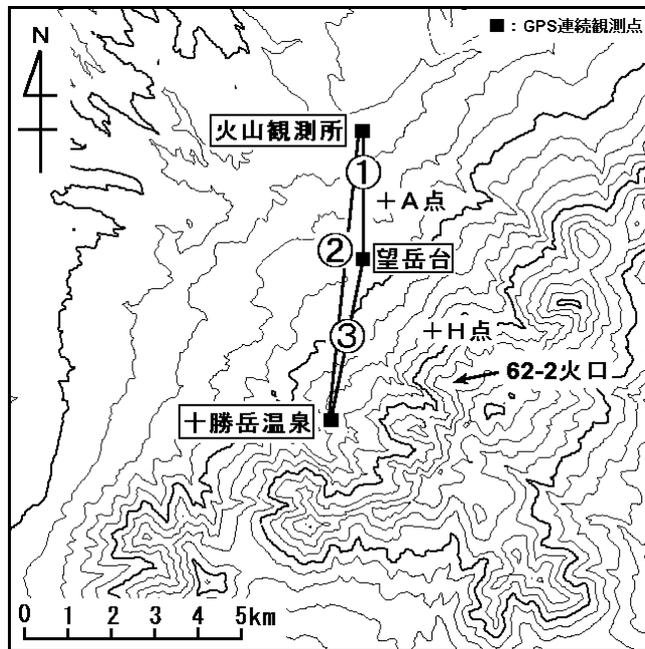
22日に上富良野町の協力を得て北海道立地質研究所と共同で火口調査を実施しました。

62-2 火口内部の西側火口底には噴出の勢いが非常に強い噴気孔が存在していました。噴煙量が多いため温度測定はできませんでしたが、出口付近の噴気は透明となっておりかなりの高温状態にあると推定されます。観察できた範囲では火口底に熱泥水噴出などの現象は認められませんでした。

62-2 火口周辺では数100m以上の広い範囲で降灰の痕跡が確認されました。グラウンド火口北部で行った積雪断面による降灰調査では、複数の降灰が確認されました。降灰の量はごく少量で、2月と4月に観測された有色噴煙によるものと推察されます。降灰分布は火山灰が噴出する際の風向に大きく支配されるため、今回の1地点調査だけでは降灰の回数や量などを詳細に解明することはできません。なお、火口周辺で採取した火山灰を北海道大学が分析した結果、火山灰には新鮮なマグマ片は含まれていませんでした。



基線長変化(2001年9月13日~2004年4月30日)





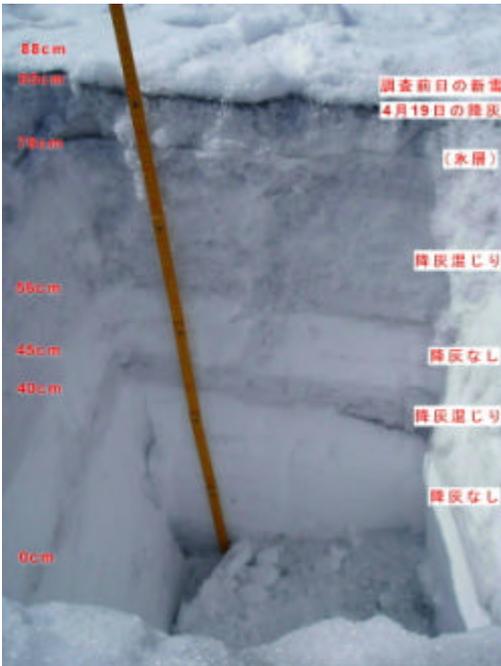
62-2 火口内部の状況(北東火口縁から)



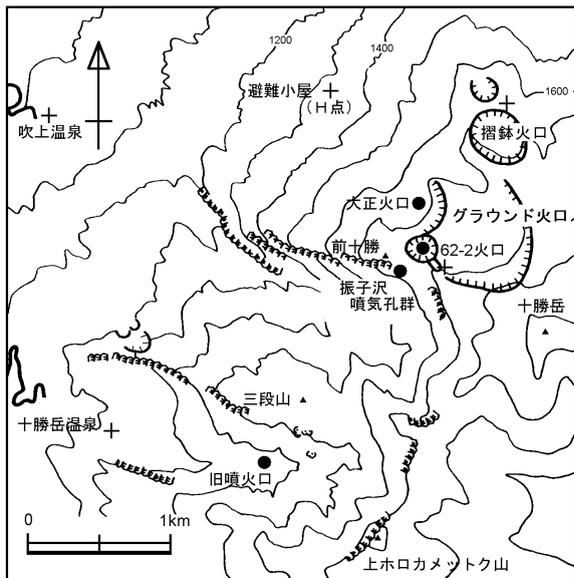
62-2 火口からの噴煙の状況(前十勝から)



グラウンド火口周辺の降灰状況(西側から撮影)



グラウンド火口北部の積雪断面



十勝岳火口周辺図

4月22日に実施した調査観測時における火口周辺の状況